

専門科目（声楽）

オペラ基礎演技A・B

代表教員：柴田 恵理子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

ーズなど)を用意すること。(市瀬)

■備考（オフィスアワー）

昼休み

■授業のテーマ

オペラ演技の基礎

■授業計画及び内容

声楽科2年全履修生を2クラスに分けて、二人の担当教員が前後期交代して授業を行う。

◇声楽家（オペラ歌手）として、表現のための正しい身体の使い方や、心の解放の仕方等オペラ演技の基礎を学び、演技の本質について理解を深める。

- ・立ち姿のチェック
- ・さまざまな精神状態での歩行訓練
- ・いろいろな感覚の集中や開発
- ・身体訓練のエチュードを通して、集中力や感情の解放を行う。
- ・他（三輪えり花）

◇オペラは勿論のこと、ステージ上での所作全般に関わる最も基本的な問題を丁寧に取り上げ、舞台で演じるための基礎を培う。次のテーマを軸に、実践的に進める。

- 1) 身体の成り立ち、動作の基本
- 2) 姿勢のポイント、歩き方のヴァリエーション
- 3) 舞台空間、対人空間
- 4) 15世紀から19世紀に至る西洋史概観：衣装・所作・ダンス（市瀬陽子）

■教材・参考書

資料・教材は適宜配布する。（市瀬）

■成績評価の方法

出席重視だが、平常点も考慮する。遅刻厳禁。

■履修上の指示事項

実際に身体を動かすので、動きやすい服装で参加すること。スカート不可。（三輪）

動きやすい服装、底の柔らかいシューズ（バレエシュ

オペラ実習 I A・B・C

■備考（オフィスアワー）
昼休み

代表教員：直井 研二

曜日時間：火曜 1～2限

学期：通年

単位数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱・演技の基礎

■授業計画及び内容

履修者全員をパート別入数が均等になる様、4月の開講時に3クラスに分けて授業を行う。モーツアルトオペラの重唱曲を取り上げ、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通して、オペラの歌唱及び演技表現の基礎を学ぶ。尚、秋のオペラ定期公演には原則として合唱としての出演を義務づけ、実際の舞台を経験することで、後期オペラ実習での役作りを解釈・表現ともに充実させ、単位の取得を可とする。*オペラ定期公演のための練習日程は、変則的に進行するため年度初めの日程発表等に充分注意すること。<曲目と授業に関して> [前期]「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」の中から選曲する。(日本語中心) 定期公演合唱曲の音楽稽古は、原則授業内で行う。 [後期]「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」の中から選曲する。(原語) <試験> 前期：クラス毎にチェックを行う。後期末に3クラス合同で、第3ホールで行う。

■教材・参考書

実習用の楽譜は、前・後期始めにクラス毎に配布し各自作成する。定期公演合唱譜は各自へ配布する。

■成績評価の方法

実習及び定期公演の出席、及び後期末試験の点数を合算した評価。(出席重視)

■履修上の指示事項

2年次に、オペラ基礎演技を取得した学生が履修できる。重唱曲の授業であるから、欠席の無いように留意すること。(通常授業、オペラ定期とも出席は重視される) 動きやすい服装で授業にのぞむこと。

オペラ実習Ⅱ A・B・C

代表教員：直井 研二

曜日時間：木曜4～5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱及び演技表現の実際

■授業計画及び内容

履修者全員をパート別人数が均等になる様、4月の開講時に3クラスに分けて授業を行う。

オペラ実習Ⅰで取得したオペラの歌唱及び演技表現を更に探求する。

前期・後期とも、古典から現代までのオペラ重唱曲を幅広く採り上げ、原語で演習する。

＜試験＞後期末に3クラス合同で、第3ホールで行う。

■教材・参考書

前後期始めに、候補曲を参考にクラス内で各自の声種等を考慮し選曲する。楽譜は各自用意することとする。

■成績評価の方法

出席点と後期末試験の点数の合算によって評価する。
(出席を重視する)

■履修上の指示事項

3年生でオペラ実習Ⅰの単位を取得した学生が履修できる。

重唱曲の授業であるから、欠席しないように留意すること。

怪我等を防ぐためにも動きやすい服装で授業にのぞむこと。(特に立ち稽古時)

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（声楽）

代表教員：佐々木 典子

曜日時間：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

学内において聴衆のまえで演奏する機会を出来るだけ多く経験する事は、演奏家にとってレッスン室だけでは学べない重要なことを気付かせてくれるものである。この「学内演奏」は、その貴重な体験を与えてくれる。

■授業計画及び内容

学内外に公開である演奏会に、定められた時間内で声楽曲を自由に選び、原則的にピアノによる伴奏で演奏する。ピアノ伴奏以外の歌唱を希望する場合には、声楽実技担当教員と声楽科部会の許可を必要とする。声楽実技担当教員の指導を受けていることが、この「学内演奏Ⅰ」履修の前提である。声楽科では現在、声楽実技担当教員の所属する講座ごとに、その教員の担当学生がこの公開演奏会に出演する事になっている。年度内に声楽科3講座が計3回の学内演奏会を行っている。

■教材・参考書

声楽実技担当教員の指示による。

■成績評価の方法

その演奏に対して、声楽実技担当教員の所属する各講座の教員による合議による評価。

■履修上の指示事項

学内外に対して公開される演奏会であり、履修者は各々およそ8分程度の自由に選んだ曲目を演奏してこれに出演する。「学内演奏Ⅰ」は通常、4年次に履修するものとするが、3年次に履修する事も可能である。但しその場合、声楽実技担当教員の指示と、さらに声楽科部会の承認が必要である。10月頃に講座別に学内演奏会の日程を設定しているので学事歴等に注意すること。「学内演奏Ⅱ」を履修する場合には、やはり声楽実技指導教員の指示と声楽科部会の承認が必要である。すでに他大学で学士号学位を

受けている学部生などが、4年次以前に大学

合唱 I

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

代表教員：阿部 純

曜日時限：月曜2限・木曜2限

学 年：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得、そして集団芸術におけるマナーを考える場もあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ、芸術的な合唱が生まれます。また、合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら、社会の一員としての全てを大切にして参加をして下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって、合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席、授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

合唱Ⅱ

代表教員：阿部 純
曜日時限：月曜2限・木曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得、そして集団芸術におけるマナーを考える場もあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ、芸術的な合唱が生まれます。また、合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら、社会の一員としての全てを大切にして参加をして下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって、合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席、授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

合唱Ⅲ

代表教員：阿部 純
曜日時限：月曜2限・木曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得、そして集団芸術におけるマナーを考える場もあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ、芸術的な合唱が生まれます。また、合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら、社会の一員としての全てを大切にして参加をして下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって、合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席、授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

声楽アンサンブルA

代表教員：清水 雅彦

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ルネッサンス・バロックから現代までの声楽アンサンブルの実際と実践（基礎編）

■授業計画及び内容

アンサンブルの基本である音程、和音、リズム、アーティキュレーションやブレスの統一などを、楽曲をもとに考察し、実際の演奏に結びつける。

アンサンブルを作るための指揮法入門。

前期、後期とも最終回をコンサート形式として成果発表を行う。

■教材・参考書

木下牧子/愛する歌（音楽之友社）

W. A. モーツアルト/ミサ曲ハ長調「戴冠式ミサ」K. 317
(ペータース) 等

他にルネッサンスマドリガルや、ロマン派作品、現代作品などの楽譜を、適宜こちらで用意する。

■成績評価の方法

出席率と授業に臨む姿勢を重視し評価を行う。

■履修上の指示事項

授業前にアンサンブルグループで充分に備えて演奏に臨むこと。

■備考（オフィスアワー）

月曜日休み

声楽アンサンブルB

代表教員：清水 雅彦

曜日時限：月曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ルネッサンス・バロックから現代までの声楽アンサンブルの実際と実践（応用編）

■授業計画及び内容

アンサンブルに求められる基本を整理し、作品に内在する思いを実際の演奏に結びつける中で、アンサンブルをすることの歓びを体感する。

アンサンブルを作るための指揮法研究。

前期、後期とも最終回をコンサート形式として成果発表を行う。

■教材・参考書

木下牧子/愛する歌（音楽之友社）

W. A. モーツアルト/レクイエム K. 626（全音楽譜出版社）

J. ブラームス/Liebeslieder und Neue Liebeslieder op. 52, op. 62 (ペータース) 等。

他にルネッサンスマドリガルや現代作品などの楽譜を、受講人数などを考慮しながら適宜こちらで用意する。

■成績評価の方法

出席率と授業に臨む姿勢を重視し評価を行う。

■履修上の指示事項

授業前にアンサンブルグループで充分に備えてから演奏に臨むこと

■備考（オフィスアワー）

月曜日休み

声楽演習Ⅰ（フランス歌曲）

代表教員：坂本 知亜紀

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

フランス歌曲の演奏法と解釈

■授業計画及び内容

個々の学生の習熟度に応じて、歌唱実技レッスンを中心に、演奏上の諸問題について考察し、テクストの特徴に相応しい音楽表現、より音楽的なフランス語による歌唱表現の習得を目指す。

以下の作曲家の歌曲作品より、各自、自由に選曲。

Berlioz, Gounod, Duparc, Chabrier, Chausson, Faure, Debussy, Ravel, Poulenc, Messiaen

■教材・参考書

各自が演奏する曲の楽譜とテクストの日本語訳を用意。使用楽譜については個別に相談に応ずる。

■成績評価の方法

出席、演奏評価をもとに総合的に評価を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

特に設定しない。e-mailにて個人的に相談を受ける。

声楽演習Ⅱ（スペイン歌曲）

代表教員：服部 洋一

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

スペイン歌曲の演奏法と演奏解釈についての実習～スペイン・中南米の声楽作品の実技レッスン（舞台後としてのスペイン語・カタルーニャ語・ガリシア語・バスク語・ポルトガル語の発音・発声法も含む）を通してその特徴的演奏スタイル・演奏解釈法等を学ぶこと、またそれらを育んだ背景であるスペインの国土・民族・歴史・風俗習慣などの講義を視聴覚教材を用いつつ学ぶ。

■授業計画及び内容

昨年度はロドリーゴやロドルフォ・ハルフテル、ガリシア語をテキストとする20世紀スペインの歌曲作品、ファリヤ、トゥリーナの代表作品を取り上げたが、今年度はガルシーア・ロルカ編スペイン古謡集、モンポウ、トゥリーナの作品なども取り上げる。モレーノ・トローバなどのギター伴奏による作品も取り上げ、担当曲によっては、スペインの国民的楽器であるギターの伴奏による歌唱体験もすることが出来る。スペイン語初心者でも授業で、カスティージャ語（共通スペイン語）やカタルーニャ語等の読み方についても扱うので気軽に受講できよう。

■教材・参考書

近年スペイン歌曲関係の楽譜は比較的入手しやすくなつたので、受講生が買いためができるものに関しては授業で紹介し購入してもらうが、入手しにくい楽譜・訳詩等に関しては、授業担当者が用意する。

■成績評価の方法

出席を重視し、担当曲の練習度、技術向上度等を総合的に評価する。特に出席不良者は不可となるので要注意。この授業は通年であるので、途中リタイヤなどのないよう、一年間受講し続ける見通しを立てて受講すること。またすでに2年間受講してしまった人でも聴講生として受講することが出来、本人の

希望があれば実技レッスンを受けることが出来る。実技レッスンを受けるときだけ出席をするのではなく、他の人がレッスンを受ける様子を見聞きすることも大変勉強になるので会出席を目指すように。

■履修上の指示事項

受講生によるスペイン歌曲発表会を行うので必ず参加しスペイン歌曲演奏技法に磨きをかけること。毎年取り上げる作曲家・作品を替えていき単位の積み上げもできるので、是非続けて受講しスペイン歌曲の多面的な魅力に触れてほしいと願う。実技では受講生(聴講生を含む)に担当曲をあてがい公開レッスン形式で行うので、担当学生は授業前に必ず読みの練習やピアノ伴奏助手との合わせを十分に行い、レッスンに臨むこと。レッスンを録音してもかまわないでの用意は各自に任せる。

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワーとしての特定の曜日・時間は設けていないが、質問・相談等ある学生は事前に担当教員とアポイントを取り日時時間を約束してこれにあてるものとする。担当教員・TA連絡先は初回授業において知らせる。

声楽演習Ⅲ（ロシア歌曲）

代表教員：一柳 富美子

曜日時限：木曜3限

学 年：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ロシア声楽曲(歌曲・オペラ)の実習と歴史、および演奏・作品解説。習熟度別の個人指導と全体講義を組み合わせて、ロシア音楽の全体像を紹介する。

■授業計画及び内容

ロシア声楽曲の歴史・歌唱・ディクションを学習する。講義は16世紀の聖歌から、実技は19世紀前半のロシア歌曲から始めて、習熟度に合わせて選曲する。アリヤービエフからショスタコーヴィチまで対応できるので、参加者の要望には出来るだけ応えたい。年2回の発表会を開催して、成績の評価対象の一部とする。前期は歌曲の発表会、後期はオペラアリアを中心とするプログラムの予定。

具体的な詳細シラバスは、初回授業アンケートを取ってから決める。

■教材・参考書

必携の教科書はない。全音の楽譜は間違いが多いので、予習で使用する時は注意すること。講義に使用する楽譜・訳詩・解説・関連資料その他は、授業で適宜配布する。

参考図書：一柳富美子著「ムソルグ斯基」（東洋書店、ユーラシア・ブクレットNo.115）、同「ラフマニノフ」（同No.180）

■成績評価の方法

学習態度や演奏などをもとに総合的に評価する。

■履修上の指示事項

最初に文字と発音について解説するので、ロシア文字が全く読めない学生も受講可能。但し、初心者は初回授業に必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

木曜日は3-1-23が控え室。アポイントを取れば、隨時応じる。

声楽実技Ⅲ-1

代表教員：佐々木 典子

曜日・時間：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード(Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等)を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3, 4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1, 2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実技Ⅲ-2

代表教員：佐々木 典子

曜日・時間：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード(Concone, Panofka, Vaccal, Marchesi, Lutgen, 等)を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3, 4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1, 2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■成績評価の方法

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード(Concone, Panofka, Vaccal, Marchesi, Lutgen, 等)を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に

合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、

■履修上の指示事項

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■備考（オフィスアワー）

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

声楽実技Ⅳ-1

代表教員：佐々木 典子

曜日・時間：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード(Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等)を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3, 4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1, 2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実技Ⅳ-2

代表教員：佐々木 典子

曜日・時間：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード(Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等)を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3, 4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1, 2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実習 I (コレペティツィオーン)

代表教員：佐々木 典子

曜日・時間：その他

学 年：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

本学声楽科の学生が、様々な声楽作品※の演奏について、豊富な知識と経験を持つピアニストによるコレペティツィオーン指導を受けることの出来るよう開設したのが、この[声楽実習 I] (コレペティツィオーン)である。※歌曲や重唱曲、オペラ・宗教的作品のアリアやアンサンブル曲。

■授業計画及び内容

歌劇場やコンサート主催機関等での Korrepetitor コレペティートル(コレペティートルとは発音しないことに注意)は、ピアノを用いて音楽指導することによって、歌手に充分な音楽表現力を身に付けさせ、かつその曲を歌手自身のレパートリーとすることが出来るよう、繰り返し指導する。その行為を Korrepetition コレペティツィオーンと呼ぶ Korrepetitor コレペティートルとは：欧米の歌劇場や音楽大学では既に確立されている音楽指導システムによる用語である。ラテン語の (con=共に) と (repetitor レペティートル=繰り返す人) の複合語である。ドイツ圏の歌劇場等では、Korrepetitor コレペティートル 又は単に Repetitor レペティートルとも呼ばれる確立した職種である。本来オペラ指揮者（指揮者見習いも含む）自身によって行われる仕事であるが、近年はピアニストがそれを行うことが多い。因みにイタリア国内では maestro del collaboratore、英語圏では coach コーチと呼ぶこともある。声楽科では上記の趣旨の指導をレッスン形式で行う。声楽専門実技レッスンの予習・復習の機能をも果たす故、専門実技担当教員の指示による履修を原則とするが、指示がなくても履修して良い。

■教材・参考書

受講者自身が受講希望のピアノヴォーカルスコア等出版譜（またはその写譜等）を譜めくりしやすい状態にして各2部持参すること。楽譜は出来るだけ信頼性の高い版を選ぶこと。

■成績評価の方法

A, B, C, D, E, F, G, H, I のうち、どの各教官のレッスンをも自由に選択して受ける事が出来るが、年度内の各教官のレッスン回数を総合してカウントし、一定の回数以上の受講を条件として 2 単位を与える。その場合、年度内の延べ受講回数と理解度を根拠として成績評価を行う。

■履修上の指示事項

履修希望者は必ず、年度初めに教務係での履修届を済ませておく事。履修届を済ませていない場合は、一定の回数以上受講していても年度末に単位を与える事は出来ないので注意する事。声楽教員室に備え付けの所定の申込用紙に、レッスンを希望する学生の氏名(重唱の場合は複数)・希望する教官名・希望日時・曲目などを記入し、遅くとも 1 週間前までに各担当教員、又は声楽教官室に提出する。詳細は声楽科研究室助手または各担当教員に問い合わせる事。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（声楽）

代表教員：佐々木 典子

曜日時間：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

4年次後期末における声楽実技試験は、学内外に対し公開演奏会のなかで演奏し、これを「卒業演奏」と呼ぶ。

■授業計画及び内容

「卒業演奏」にさいし、履修者は声楽実技担当教員の指導のもと、曲目を自由に選定し、その曲目を定められた時間内で、ピアノ伴奏により暗譜で演奏する。「卒業演奏」は、学部における声楽実技レッスンを軸とした研鑽の集大成ともいいうべきもので、4年次の「声楽実技Ⅱ」と一体をなすものである。

■教材・参考書

声楽実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い楽譜を使用する事。

■成績評価の方法

「卒業演奏会」において採点する声楽実技担当教員全員の採点の平均点を基礎として評価。

■履修上の指示事項

現在、卒業演奏においては、「アリア」（オペラ作品のアリア・カヴァティーナ・ロンド等、またはオラトリオ・カンタータ等の声楽作品からのアリア等を原語・原調で演奏する事）1曲と、「歌曲」（移調は自由であるが、原語で演奏する事）1曲の計2曲を8分以内（曲間も含む）にまとめて、ピアノ伴奏により暗譜で演奏する事が義務づけられている。注1：原語あるいは原調以外で歌う場合は、声楽実技担当教員の指示と声楽科部会の許可がある場合にのみ、これを認める。注2：曲間を含む演奏時間の制限である「8分以内」は厳格に守り、それを越え

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

舞台語発音法

代表教員：永井 和子

曜日時間：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

舞台における発音法を、歌唱の場合を中心に講義し演習する授業である。

■授業計画及び内容

舞台から客席に、如何にして明瞭な言語を届けられるかは舞台人として必須のテーマである。ここで扱う言語は、日本語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・英語の五カ国語である。それぞれの言語に対し、3～4週ずつネイティブを含む各教員が、歌唱における発音法を講義・演習する。声楽科学生として知らねばならないことが満載の必修科目である。

■教材・参考書

各担当教員の指示による。各外国語の辞書等は、履修者が授業に持参する事。

■成績評価の方法

出席重視の評価。

■履修上の指示事項

なるべく3学年次に履修すること。

■備考（オフィスアワー）

ボディテクニック

代表教員：安達 悅子

曜日時間：木曜3限

学期：通年

単位数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

身体で音楽を感じ　自由に表現できることをめざして

■授業計画及び内容

バレエは全身で観客に話しかける言葉、まさしくボディランゲージです。

音楽やドラマ、感性を表現するために、ダンサーにとっては身体が楽器です。

楽器である身体を作り上げ、調整するための毎日のトレーニングがバレエのレッスンです。

このクラシックバレエの基本レッスンを通して、オペラに必要な姿勢、立ち居振る舞い音楽的な動き（リズム・メロディー）、呼吸法、エレガンス等が身につくようにする。

また、簡単な踊りを通して、ペア、アンサンブル、プレイメント等の感覚が身につくようにする。

そして、舞台上で表現するための身体の自由を得られるように毎週のレッスン（授業）を行います。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を重視します。

■履修上の指示事項

レオタード、バレエシューズ等を各自用意する。身体で感じる授業なので、積み重ねの効果を体感して欲しい。

■備考（オフィスアワー）